

海外リポート

(随時掲載)

横浜市フランクフルト事務所長

柳沢 貴之

ドイツ

横浜市がフランクフルト市とパートナー都市提携をして5年目を迎えた今年、両市の間で新たな交流が実施された。10月中

旬フランクフルトの学校「シュレ・アム・リード」の生徒11人が横浜を訪れ、市立「みなと総合高校」で授業体験や茶道部・書道部などの部活動に参加し親睦を深めた。

5月の林市長のフランクフルト訪問を契機に、両市の学校間の交流に向けて、学校、友好委員会、行政などによる調整が加速し、実現に至った。

若い世代の交流拡大

5年前、林文字市長がシュレ・アム・リードを訪問し、フランクフルト市長と若い世代の交流について意見交換を行い、以後、市民団体を中心とした交流が行われてきた。そして今年1月、フランクフルト市長がみ

今回の訪問の成功は、学校交流実現に向けた両校の熱意と尽力によるところが大きい。シュレ・アム・リードは訪問にかかる資金調達のため、学園祭で模擬店を出店するなどの取り組みを行った。みなと総合高校で



書道体験の様子

は、多くのご家庭がホームステイに協力くださった。また、学校交流の趣旨に賛同くださった企業から日本への渡航について

協力を得るなど、多くの関係者が一つのゴールに向かってまい進したたまものと言える。

これからの時代を担う若者の交流促進は、横浜とフランクフルトの都市間連携において非常に重要なテーマだ。言葉や文化の壁を超えた今回の交流は、両校の生徒にとって貴重な経験となり、お互いに大きな刺激となったことだろう。今年、両市の大学間でも協定が締結されるなど若者交流が広がっている。当事務所としても様々な可能性を探りながら、若い世代の交流促進に寄与していきたい。